

# みなとっふ

Takanawa  
Community News Magazine

## 高輪地区情報紙

2014年7月

Vol.24

三田4・5丁目・高輪  
白金・白金台



発行：高輪地区総合支所 協働推進課

編集：みなとっふ編集室

## CONTENTS

### 2 活かそう地域の 商店街

●白金プラザ会

イベント豆知識

わたしだって  
地域の一員!

### 3 この街に この人あり

●版画家

原田 維夫さん



### 4 5 地域のおしあつ

●高輪地区の歴史的建造物③

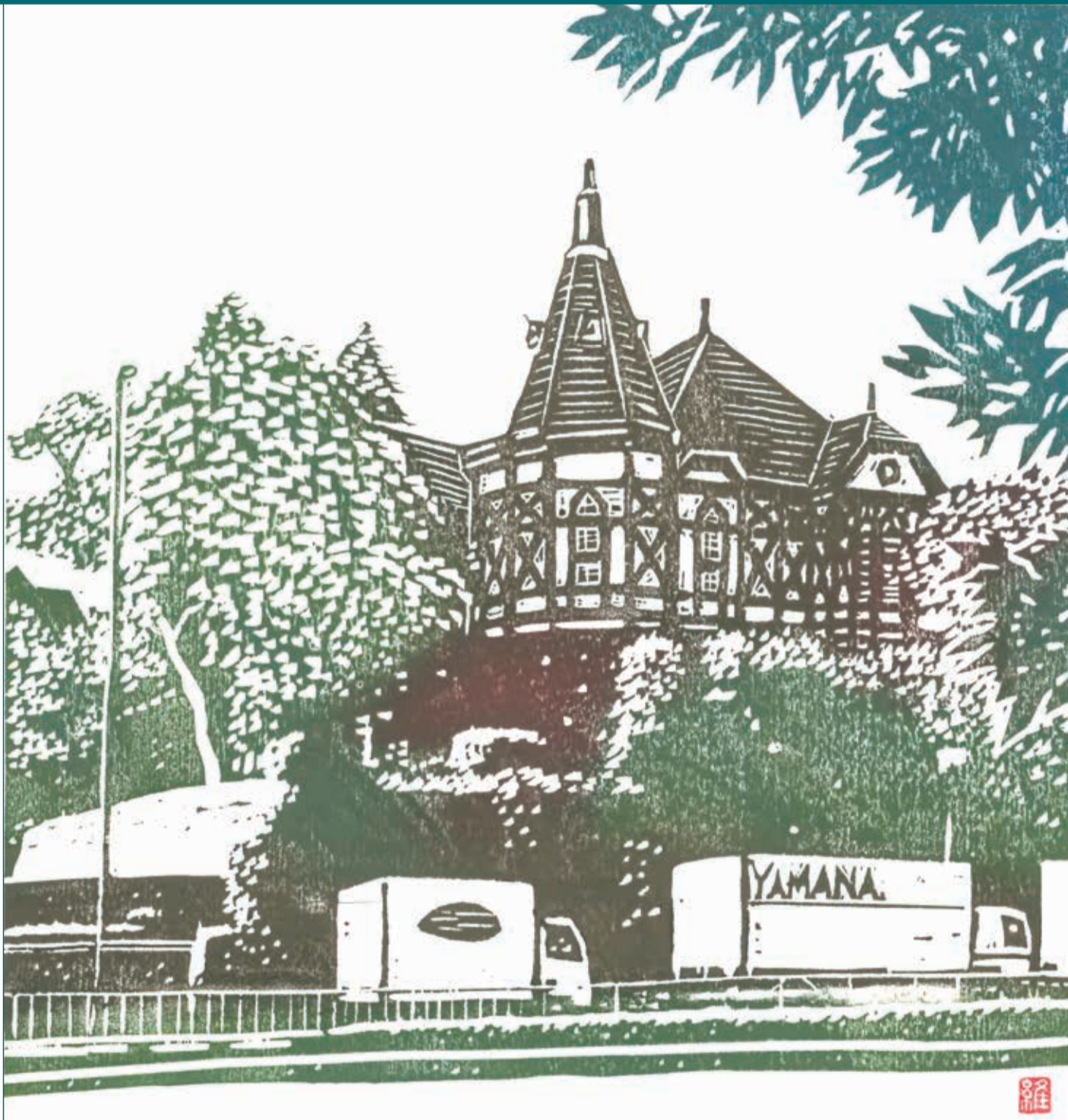
### 6 暮らしプレイバック

読者のおすすめ料理

### 7 私の自慢 地域の自慢

地域で活躍する若者たち

### 8 区からのお知らせ



表紙絵 明治学院記念館(白金台) 【作者】原田 維夫さん(高輪在住)

## 地域に第3の居場所を

大都市に住む多くの勤め人、とりわけ男性は現役時代、家庭(第1の居場所)と職場(第2の居場所)を往復するだけで、自分の住んでいる地域に、ほとんど知り合いもいないし関心も知識もない。リタイヤすると一挙に職場の人間関係を失うことになり、どうしても引きこもりがちになる。

「あまちゃん」という朝の連続テレビドラマが人気になった理由の一つは、男女、年齢問わず地域の人々が何となく集まって気楽に話し合うカフェがあり、その雰囲気がとても温かく楽しそうであって、地方に住む魅力がうまく描かれていることにある。大都市には、そういう場所が少なく、地域の人間関係も薄い。明治学院大学河合克義教授の調査によれば、港区では地域で孤立した高齢者が多いという結果がでている。

そこで、港区が主催するシニア対象のチャレンジコミュニティ大学出身者からなる高輪地区CCクラブでは、だれでも気楽に立ち寄りおしゃべりができる第3の居場所をつくらうということになった。昨年、E&Sポルト財団の協力を得て、高輪区民センター2階のスペースを利用して、「ボランテニアカフェ高輪」をオープンした。平日の限られた時間であったが、コーヒーを飲みながらおしゃべりできるということもあり、結構立ち寄り人も多かった。今年度からは、高輪地区CCクラブ、高輪地区総合支所、高輪区民センターの協働事業で、この「ボランテニアカフェ高輪」を「コミュニティ・カフェ高輪」と名前を変えて継続することとなった。場所は高輪区民センター2階、毎月第2・第4金曜日午後1時から4時まで開かれる。男女年齢問わず、初めての方、地域で知り合いを増やしたい方大歓迎。どうぞ気楽に立ち寄ってカフェでおしゃべりしませんか。

(担当)安藤、吉田





「スノー・クリスマス」は、新潟県十日町市から雪を運んできて、閉鎖した道路に雪の広場を作ります。子ども達はプラザ

アエルシティが出来る前から地域で愛されていた店と新しい店とが互いにうまく溶け合っているのが嬉しいことです。  
 白金プラザ会では2大イベントとして、夏は「天の川蛍祭り」、冬は「スノー・クリスマス」をおこなっています。  
 「天の川蛍祭り」は、山形県東田川郡庄内町から蛍を移送し、多い時は3000匹の蛍を放す、なかなか幽玄な催しです。2011年は東日本大震災で蛍が全滅し、中止を余儀なくされましたが、2012年は数が少ないながらも、なんとか蛍を確保でき、お祭りを開催することができました。



石井前会長

2014年現在30店舗が加入、飲食店、サービス&物販、医療&ヘルスケアなどバラエティーに富んでおり、白金



2005年11月白金高輪に、白金アエルシティのオープンと共に誕生した商店会「白金プラザ会」。前会長の石井隆介さんにお話を伺いました。

## 白金名物、夏は蛍祭り、冬はスノー・クリスマス



白金プラザ会ホームページ  
<http://www.shirokanepiazza.com>

(担当/森、河井、安藤)

白金プラザ会は再開発で生まれた新しい商店街なので、コンパクトにうまくまとまった街並みを生かしたイベントを企画実行なさっていると感じました。いつもなんだか楽しげで、つい足を運んでしまおう...そんな雰囲気や雪など、都会で自然を楽しむ催しをつうじて作り出していらつしゃるようです。

何年かかるとはわかりませんが、まだまだこの近辺は開発が進み、街並みが変わっていくようです。現在、空き店舗がないのがなによりです。これからはもう少し物販のお店が増えてくれればと願っています。

※尚、本年6月28日に小林宗吉さんが新会長に就任しています。

会場で用意した雪球を投げて的に当てるゲームを楽しんだり、思い思いに雪だるまをつくったり、一日限定の雪遊びを堪能してくれるようです。



## イベント豆知識

イベントを楽しむための、ちょっとした豆知識をご紹介します。今号では、夏の定番「盆踊り」と、毎年10月31日に行われる「ハロウィン」を取り上げてみました。

### 盆踊りって？

盆踊りは、もともとはお盆に精霊を迎え、死者を供養するための行事です。昔は旧暦7月15日の旧盆に行われたので、いつも満月の晩であり、「月が出た出た月が出た・・・」で始まる有名な炭坑節の歌詞にも往時の様子がしのべられます。しかし今では、お盆そのものが新暦7月15日や多くの地方では月遅れの新暦8月15日になり、盆踊りは次第に、お盆とは別の夏の風物詩として7月から8月に各地で楽しめるようになってきました。高輪地区でも街角から踊太鼓や踊唄が聞こえる季節になりました。さあ、今夜は浴衣でも着て出かけてみましようか。



### ハロウィンって？

ハロウィンは、10月31日に収穫を祝い悪霊を追い出す古代ケルト人の祭りが起源です。この日は古代ケルトの大晦日で、悪霊除けのために仮装したり焚き火を焚いたりしていました。

ハロウィンでは、焚き火の代わりにカボチャのランタンを飾ります。もともとヨーロッパではカブで作っていましたが、アメリカでは巨大なカボチャの収穫期と重なるため、カボチャで作られるようになったそうです。また、仮装した子供たちが繰出し「トリック・オア・トリート（お菓子をくれないと悪戯するよ）」と言ってお菓子をねだりますが、農民が祭用の食料をもらって歩いた中世の風習のなごりともいわれています。

ハロウィンは現在では特にアメリカで定着していますが、最近では日本でも盛んになり、高輪地区にも色々なイベントが見られるようになってきました。10月31日、皆さんも楽しんでみてはいかがでしょうか。



(担当/梶、本城、土屋、増田)



去年の清正公大祭の金魚です。小学校2年生の明仁が毎朝「金魚ちゃんご飯だよ」と声を掛けながら餌をあげていると、彼のところへ寄ってくるようになりました。

わたしだって地域の一員！

こんなに大きくなりました！  
 (実物大です)

ぼくのペットは、金魚です。去年のおまりの金魚が、くいて、くいて、くいていたら、9月6日くらい大きくなって、今も元気でおいでしています。

明仁

金魚ちゃん  
 (高輪2丁目在住)

(担当/森、松島、滝川)

自慢のペット募集！

応募方法は7ページ参照



## この街にこの人あり

版画家

原田 維夫さん

## 日本の古い街並みや建物など和の美しさをこれからも描いてみたいです

素晴らしい表紙の絵についてお尋ねします。これは木版画ですか？

そうです。ただ多色摺りではなく一つの版で筆を変えて塗りわけて多色の表現をしています。以前から高輪地区で私が好きな明治学院大学のインブリー館を描いてみたいと思っていました。

版画を始められたのはいつごろからですか？

田中一光さんの事務所で助手をしていたころ、師匠の田中一光さんから「君はデザインより絵を描く方がよい」と言われ絵を書きはじめました。その頃の絵は版画風のものでした。イラストレーターの和田誠さんは、君の絵は版面向きの絵だからと薦められ道具を買って版画を始めました。20歳頃だったと思います。

学生時代にいろいろ賞をとられたのですね

多摩美術大学に在学中に、日本宣伝美術会の特選を受賞し、毎日商業デザイン展の特別賞を受賞しました。日本宣伝美術会は当時のデザイナーの登竜門になっており、特選は価値のあるものでした。

後に日本デザインセンターに勤めるきっかけになりました。

卒業後、横尾忠則さん、宇野亜喜良さんなどとデザイン会社「イルフィル」を設立していますが、どのようなことを目指してつくられたのですか？

私は日本デザインセンターに勤めていたが、ある時先輩の横尾さん、宇野さんから銀座のレストランに誘われました。アメリカで3人のイラストレーターがつくった会社が大成功している話があるので、我々も3人だし、同じようなデザイン会社をつくらうということになりました。食事が終わったころには私たちは会社を辞めることになっていました(笑)。著名な化粧品会社など企業のデザインの仕事を多くしました。横尾さんがサイケデリックのデザインで有名になったのもその頃でした。

東京オリンピックの時、ピクトグラム(図記号)をつくられたのですか？

1964年の東京オリンピックの開催が決まった時、外国人は日本語をわからない

ので、だれでもわかるピクトグラム(図記号)をつくらうというデザインプロジェクトがありました。10人以上のデザイナーが一つの部屋に集まっていたいろいろなピクトグラムを考えました。私もそのメンバーに入りました。今でも使われているトイレのマークなどは当時つくられたものです。ピクトグラムの先駆けとなったプロジェクトでした。

フランスのサロン・ドートンヌに入賞していますね

サロン・ドートンヌはピカソやマチスなど著名な画家を生んだ権威あるパリの美術展で、20歳の頃に「鷲舞い」という祭りの版画を出品し、入賞しました。当時として日本人の入賞は珍しかったようです。苦勞をされた時期もあったのですか？

若い頃、漫画家の東君平さんからデザインをやめて、絵を描くことに専念したらどうかというアドバイスを受け、版画の制作のみにしたら全く収入がなくなってしまう、まだ子どもが小さい時だったので食うや食わずの貧乏生活を味わいました。

朝日新聞や毎日新聞などで連載小説の挿絵を書いておられますね。連載小説の挿絵は毎日なので大変なのでは

描く絵の内容をきちんと指示していただけの作家や、ある程度まとめて原稿を送っていただけの作家の方の挿絵はやりやすいです。しかし、ぎりぎりになって原稿が送られてくる場合は、作業が深夜になることがあります。でも、毎日絵を描く生活のリズムができるので、新聞の連載小説の挿絵はこれからもやっていきたい仕事のひとつです。

本の挿絵や装丁の仕事を随分されていますね

挿絵を描いた本は何百冊にもなり、とても数えきれません。私が挿絵を書いた本の作家は直木賞などの文学賞をとる方



「劉邦」の挿絵より(毎日新聞連載中)

が多く、原田が挿絵を描くと賞がとれるという伝説にもなっていました。

源氏物語など歴史もの、日本の祭り、日本の城などや馬をテーマにしたものが多いようですがこれからはどんなテーマを考えられていますか？

版画の画題に合っているもので、中国や和のものが多くなっています。馬は競馬が好きなので(笑)。これからのテーマとして景色や建物を描くことも好きで京都の街並みを描いてみたいと思っています。また、フィレンツェやベネチアとかのイタリアの古い教会も描いてみたいですね。

高輪地区についての印象はいかがですか？

高輪地区に来て8年になります。妻が高輪神社の近くに30年以上事務所を持っていたこともあり、高輪近辺の場所をずっと探してここに住むことになりました

た。高輪地区もまた住んでいるマンションもとても気に入っています。高輪地区でよく行く場所、好きな場所がありましたら教えてください。

母が「特別養護老人ホームありすの杜きこの南麻布」に入所しているので、ここから麻布までよく歩いていきます。高輪から麻布までの途中の道は大好きです。また、泉岳寺周辺の路地や階段なども好きな場所です。

取材を終えて

紹介者の野中雄介さんも含め、超高層マンションの景色のよいラウンジでインタビューを行いました。ソフトで謙虚な話し方で、いいねいに質問に答えていただき、楽しいインタビューになりました。

(担当/安藤、松島、森)



【プロフィール】 原田 維夫 (はらだつなお)

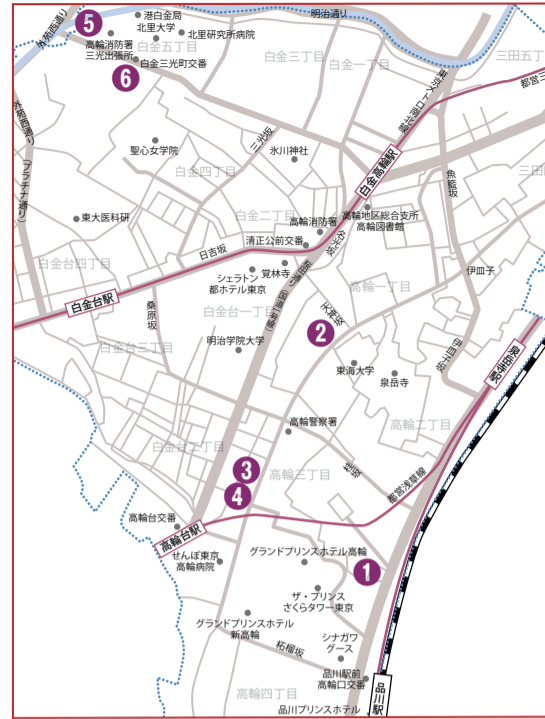
1939年東京生まれ。グラフィックデザイナー田中一光氏の助手を務める。毎日商業デザイン展特別賞受賞。日本宣伝美術会(JACC展)特選など数々の賞を受賞。フランスのサロン・ドートンヌ入賞。シンガポール、ロサンゼルスにて個展。スリランカ政府の依頼で「孔雀の図」を作画。朝日新聞、毎日新聞、読売新聞など朝刊新聞小説の挿絵を描く。時代小説、歴史小説の本の挿絵、装丁を多く手がける。実弟は著名なチェリスト原田禎夫氏。



# 地域のアシあと 高輪地区の 歴史的建造物

3

今号は、地域内に残る大正、昭和時代の建物の特集です。皆さんは、「看板建築」をご存知ですか？ ○○菓子店とか○○書店とか書いてある看板とは違うのです。木造の商店の表側正面を衝立のように造り、それが看板のような印象を与える建物で、関東大震災の復興期に、名もない大工さんたちの技術や感性によって作られた「民の芸術」ともいえる建築物です。それらの建物は、約100年の年月を経て、建て替えやリフォームなどで姿を消したものが、姿を変えてしまっているものも少なくありません。それでも奇跡的に原型をとどめ、残っているものもあります。皆さんもお散歩がてら、貴重な建物を探してみてください。そしてその風格ある姿を、覚えておいていただけたらと思います。



## 看板建築

1923(大正12)年の関東大震災後、商店等に用いられた建築様式。当時大学院生だった建築史家の藤森照信氏(1946年～)が、明治初期の擬洋風建築に通じる民間の系譜の建築として着目し、「看板建築」と命名し、1975(昭和50)年の日本建築学会大会で発表した。

関東大震災後の復興では、土地画整理事業を実施し、道路幅を広げたが、それぞれの敷地は、面積を減らさざるを得ず、建物の軒を出すのは不利であった。(公道上に軒を出せば違法建築となる。)このため苦肉の策として屋根裏部屋の設置が積極的に取り入れられた。耐火性を向上させるため、建物の外側を不燃性の材質(銅板・モルタル)で覆う必要があった。銅板は、年月を

経て美しい緑色になっている。また、時代的にも庶民層の間に洋風建築への志向が強くなってきていた。

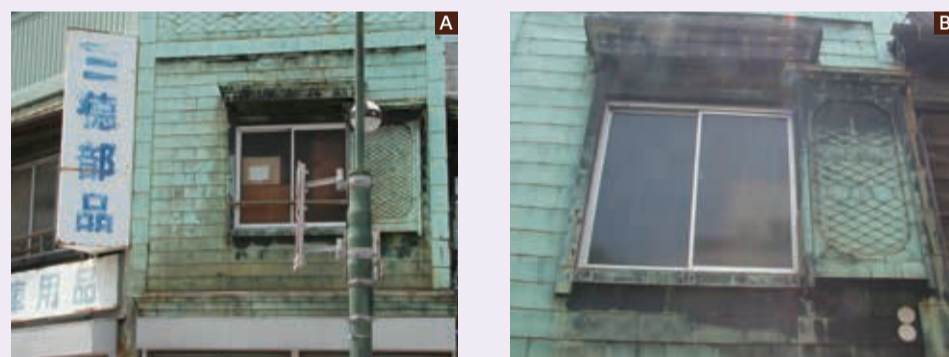
こうした条件が重なり、震災復興の過程で大量の看板建築が造られることとなった。

建築物の造作に商店の「看板」を作りつけたものではなく、看板建築の表面は、看板・広告スペースとして用いられるものではないことに注意。看板建築は外観こそ洋風に見えるが、店の中に入るとタタキの奥に茶の間があるような昔ながらの間取りがほとんどであった。

典型的なものは、木造2階建ての店舗兼住宅で、軒がなく、フラットなのが特徴。水平垂直のラインに対して、曲線が効果的に使われている。建築前面の壁を垂直に立ち上げ、銅板やモルタル等、不燃性の素材で仕上げて装飾をつける。

## 1 第一京浜国道沿いに建つ 三徳部品 高輪3丁目

交通量の多い国道の一角に建つ「三徳部品」は自動車部品等を扱う会社で、となりの営業所に隣接して、本社部門が入っている建物が看板建築。昭和40年代に移り住んで以来、建物の外観は、ほとんど手を入れていないようで、レトロな雰囲気を残しながら、保存状態の良さが感じられる。東日本大震災にもびくともせず、内部の備品が倒れることもなかったとのこと。当時の優れた建築技法がうかがえる。



A B C 戸袋の一つ一つに異なった文様が施され、壁面にも違った模様打ちつけられていることから、かなり凝った造作であることがわかる

## 2 川上園 高輪1丁目

川上家は青山藩祐筆の家柄で、お茶屋の初代、川上福次郎氏が1890(明治23)年開業。銅板葺の外壁の建物の中は茶の間があり、2階の日本間には床の間が設けられている純日本風。関東大震災の時も、瓦が落ちただけ。東日本大震災の折も柵に並べた瀬戸物類もほとんど被害もなく、店の奥の部屋にいた家人はまるでゆりかごの中に入ったようだったと…

残念ながら、長い風雪に耐えた貴重な建物は、その役目を終え、建て替えのため、8月には姿を消すことになります。



大正時代の様子(関東大震災前)



昭和30年代の様子



現在の川上園

## 地区内にはほかにも看板建築が残っています。探してみてください!



高輪3丁目



高輪3丁目



白金5丁目



白金6丁目

## 白金台の古い個人住宅 塚田邸 白金台2丁目

塚田さんの家は、白金台の閑静な住宅地の中にあります。いくつかの会社を営んでいた祖父の塚田一夫氏によって、1950(昭和25)年に建てられました。腕のいい職人が、大勢集まってくれたそうで、特に居間と庭は京都から専門の職人を招いたそうです。東日本大震災の際にも、ほとんど被害がなく、しっかりした造りです。

玄関入って横に応接間があり、つくりつけの家具や暖炉があります。塚田氏の一番お気に入りだった居間には、アンティークのランプ、年代物の火鉢や茶筆筒がおかれていて、昭和前期にタイムスリップしたようです。通りから全く見えない庭は、広く素晴らしいもので、塚田氏は大きな窓を開けて、よくパーティを開いたりされたそうです。

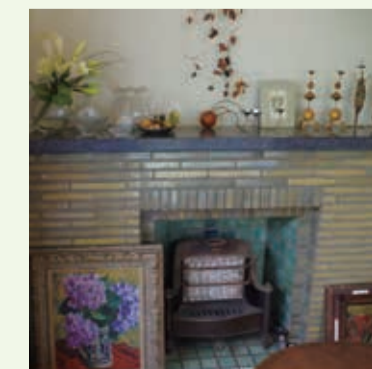
近年、漆喰がひび割れたり雨漏りがあったりと、修理が必要な部分も多くなってきて、なかなか維持が大変とのことですが、ほとんど、当時のままの状態を保たれている昭和前期の貴重な建物です。



塚田邸正面



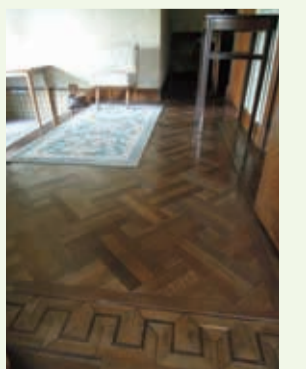
居間から見た広い庭



職人が丹精こめて作った暖炉



当時のままの居間



玄関入ってすぐ、寄木細工が施してある廊下



## 暮らしプレイバック

お話を伺った人 前澤 常代さん (101歳・白金在住)

100歳を過ぎ毎日元気で過ごせることが幸せです

今年101歳のお誕生日を迎えた前澤常代さん、時代とともに生きた激動の体験談を話して下さいました。

私は1913(大正2)年に、岐阜県中津川市で7人兄弟の3番目に生まれま

た。高等小学校を卒業すると、当時、片倉製糸に勤務する父の関係で信州岡谷の生糸工場に住み込みで働き始めました。

岡谷の冬は寒くて、寝るときは湯たんぽを抱えて寝るのですが朝方になるとその湯たんぽがすっかり冷たくなってしまったこと、お風呂から上がって廊下を歩いて部屋にもどる間に濡れたタオルがかちんかちんに凍ってしまったことなど今でも忘れられません。

たまの休みに仲間と観に行く映画が唯一の楽しみでした。映画館までは天竜川に沿って2〜3時間ほど歩くのですが、仲間が一緒だったこともあり、帰りの夜道もまったく苦にはなりませんでした。

一年に一度、皇室への献上品をつくるために、特別に選ばれた2〜3人が白装束に身を包み、糸引き(ご本人の表現)をするときは、緊張で身が縮むおもしろい感じがして、なんとか選ばないでもらいたいと願ったものでした。

1937(昭和12)年、縁あって24歳で結婚、旋盤工だった主人の仕事の関係で文京区



100歳の記念に内閣総理大臣から銀杯をいただく

私の主人は腕のいい旋盤工でやさしい人でしたが、脳溢血で倒れ、16年間の闘病の末、76歳で亡くなりました。後を継いだ息子も一昨年亡くなり、つらい思いをしましたが、今は、嫁と孫娘に囲まれ幸せな毎日です。幸い健康に恵まれ、階段の上り下りも平気です。自分のことはなんでも自分でしています。去年の100歳のお祝いに区長さんがわざわざ来てくださりうれしかったです。みんなに迷惑をかけず元気で過ごせればそれが何よりの幸せです。

(担当/吉田、河村、森)



武井雅昭区長といっしょに

小石川に所帯をもち、翌年息子が生まれました。1941(昭和16)年太平洋戦争がはじまり、次第に激しさが増してきたため、中津川市の実家に疎開しました。実家でも食糧がなかなか手に入らず、木綿の着物1枚でお米3升と交換するという生活でした。

戦後、小石川に戻ってからも食糧不足が続きました。千葉県や栃木県などへよく買い出しに行きました。当時、お米は配給制だったため、警察の取り締まりでお米と分かれると没収されてしまうのでサツマイモの中に隠して持って帰りました。その後、しばらくして、主人の姉が嫁いでいた白金の豆腐屋を手伝うためもあり、豆腐屋さんの2階に住むことになりました。食糧難の当時はおからが飛ぶように売れた記憶があります。豆腐屋さんからすぐ近くの現在の住所地に住居兼工場を建て移り住んだのは1952(昭和27)年で、以来、今に至っています。

クウェート国

Mrs. Jamilah Al-Otaibi のおすすめ料理

ジャミラ・アル・オタイビ駐日大使夫人



## ムラビアン

クウェートは、アラビア半島のペルシャ湾沿岸に面しているため、エビやフエダイなどのシーフードも、よく料理に使われます。香辛料を用いた肉、魚料理をよく食べるので、各家庭では様々なスパイスを常備しています。宗教上、豚肉は食べません。

ムラビアンは、クウェートの代表的な料理で、各家庭でよく作られています。必ず、ダクス(トマトソース)をかけます。エビは、干しエビを使うことが多いです。

飲み物は、アラビアコーヒーのほか、「ラバン」という飲み物が一般的によく飲まれています。

## &lt;作り方&gt;

1. 米とレンズ豆をそれぞれ、約30分間水に浸し、ざるにあげておく。
2. サラダ油半分(25cc)を使い、玉ねぎ1個分、角切り野菜の半分とエビを炒め、スパイスで味をつけて10分間火にかける。エビ入り具材のできあがり。
3. 残りの玉ねぎ、角切り野菜をサラダ油25ccで炒め、レンズ豆を加えてさらに約5分間炒める。水2カップを加え、やわらかくなるまで煮込む。米、1のエビ入り具材の半分と残りの水(2カップ)を加え、蓋をして水気がなくなるまで炊く。
4. 炊き上がったライスの上に、残りのエビ入り具材をかけ、ダクスをかけてできあがり。

## 【ダクスの作り方】

1. にんにくをサラダ油で炒め、黒コショウ、コリアンダーを加えて火にかけてたま1分間混ぜ合わせる。
2. トマトを加えて、さらに7分煮込む。

## ☆ラバンの作り方

ヨーグルト(500g)、牛乳(2カップ)、塩(小さじ1/2)をミキサーにかけてよく混ぜ、コップに注いだらミントの葉をトッピングする。

◎ムラビアンと一緒にお試しください。



ダクス

(担当/滝川、森、河村)



## ●材料(4~5人分)

米(インディカ米) ..... 3カップ  
水 ..... 4カップ  
玉ねぎ ..... 中2個(みじん切りにしておく)  
むきエビ ..... 14~18尾(荒みじんにしておく)  
レンズ豆 ..... 60g(なくても可)  
サラダ油 ..... 50cc  
スパイス(ガラムマサラ... 小さじ2、カルダモン... 小さじ1)

5mm角切りにした野菜(人参小1本分、トウモロコシ、グリーンピースなど適宜 冷凍のミックスベジタブルでもよい)

## 【ダクス(トマトソース)の材料】

缶詰のホールトマト... 1カップ(生のトマトでも可)  
にんにく ..... 小さじ1(みじん切りにしておく)  
黒コショウ ..... 少々  
コリアンダーパウダー ..... 少々  
サラダ油 ..... 少々



私の自慢  
地域の自慢

## 模型飛行機操縦で世界に挑戦する兄弟

井上雄一郎さん(40歳)・純一さん(35歳)  
(白金1丁目在住)



空高く舞い上がる

兄弟で模型飛行機操縦世界大会に挑戦するお話を弟の純一さんからうかがいました。

「一番大きな模型飛行機は175ccのエンジンを積み、重さは20kg、500mの高さまで飛びます。兄雄一郎は10代から始めており20年以上行っています。私は始めて4年になります。模型飛行機はキットを組み立ててつくりまします。キットはヨーロッパ製のもので、キットの組み立て方は私のホームページをのぞいてください。(http://www.acrobrotthers.com)

2年に1度行われる世界模型飛行機操縦大会に日本代表として参加し、64ヶ国中16位に入ることがあります。昨年はチェコで行われ、オーストラリア、アメリカなどの大会に参加しました。競技は音楽に合わせて、飛行機を動かしたり回転させたりし、その美しさを競います。いわば、フィギュアスケートのようなものです。飛行機の馬力など性能もありますが、リモコンの操縦技術が勝負を決めます。

参加者はヨーロッパやアメリカの方が多いです。同じ趣味なので、外国人の参加者ともすぐに友達になります。



井上兄弟が操る模型飛行機

日本では埼玉県桶川市の河川敷などで練習します。私たちは日本模型航空連盟に所属していますが、連盟の中で一番大きなクラスの模型飛行機を趣味にしている人は300人位です。夢は、世界大会で優勝することですが、まだ時間がかかりそうです。」

(担当/渡邊、安藤)



井上純一さんと模型飛行機

## 地域で活躍する若者たち

### 折り紙がつなぐ、若者と高齢者の笑顔

皆さん、最後に折り紙をしたのはいつ頃でしょうか。大人になってから改めてやってみると意外と複雑で、思っていたより難しく感じるかもしれませんね。地域で活躍する若者を紹介するこのコーナーでは、今回は高輪いきいきプラザでおりがみ開放ボランティアを行っている大学生を紹介したいと思います。

もともとこの事業は、高輪いきいきプラザの職員が折り紙教室として高齢者の方々に折り紙を教えるものだったのですが、昨年9月からは職員として働いていた大学生が中心となり、企画を新たに明治学院大学の学生がボランティアとして参加する「おりがみ開放」となりました。

折り紙は脳を活性化すると言われていますが、この事業の効果は



リーダーの吉田さん

それだけではありません。大学生と高齢者の方が、鯉のぼりや金魚すくいなどその季節に合わせた折り紙のレシピを見ながら、一緒に悩み、教え合い作品を完成させるのです。毎回素敵なレシピを考えているのは、学生ボランティアのリーダーの吉田さん、社会福祉学科の4年生です。「孫のよう



みんなで楽しく折り紙にチャレンジ

な学生が横にいて一方的に折り方を教えるのではなく、一緒に共同作業をすることで高齢者の方々に使命感が芽生え、とても良い刺激となっています。」とおっしゃっていました。

近頃は核家族が増え若者と高齢者の方が関わる機会は減っていますが、世代間交流にはとても良い作用を感じます。折り紙が完成することだけでなく、若者の存在がそれ以上の楽しさを生み出しているのかもしれない。このような、若者が高齢者の方と積極的に関わる活動が、様々な場所で広がることを願っています。

(担当/増田、本城、土屋、梶)

募集しています!

#### あなたの自慢の料理(レシピ)や自慢のペットを紹介してみませんか?

①記事(原稿)、②写真(プリント[L判]またはCD-R)、③氏名、④住所、⑤電話番号、⑥FAX番号、⑦メールアドレスを書いて下記あて先に送付してください。  
※掲載をお約束するものではありません。※応募書類は返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

●あて先・問い合わせ先:高輪地区総合支所協働推進課 「地域情報紙担当」 〒108-8581 港区高輪1-16-25 TEL 03-5421-7123



区からのお知らせ

「たかなわフェスティバル」を開催します!

※今年度は「たかなわフェスティバル」、「輪い輪いまつり」、「あっぷリング高輪フェスティバル」がひとつになりました。

開催日時 平成26年11月8日(土)・9日(日) 午前10時~午後5時(予定)

開催場所 高輪区民センター他(港区高輪1-16-25)

開催内容

※内容は予定です。詳細は今後、広報みなどや区ホームページなどでお知らせします。

●白金高輪グリーンミュージックフェスティバル

輪音~奏でよう! 地域のハーモニー~

高輪で活動する皆さんによるコンサート

●輪い輪いまつり <音楽祭、舞台部会、展示>

高輪区民センター利用団体の発表

●あっぷリング高輪フェスティバル <舞台発表、展示>

保育園、児童館、子ども中高生プラザ、いきいきプラザ利用者の発表、子ども向けゲームなど

●落語らいぶ@高輪コミュニ亭

落語の口演と落語の所作や話し方を体験

●コミュニティ・カフェ高輪

コミュニケーションスペース

●デジタルアーカイブ展示・昔あそびコーナー

「高輪地区の今と昔」の写真展示や射的などの昔あそび

●子どもみなとつぷ編集室

詳細は、右欄の子ども記者募集欄をご覧ください。

●自転車シミュレーター体験

自転車のシミュレーターを使って、自転車の乗り方や交通ルールについて学びます。

●地域の魅力いっぱい写真展

地域の皆さんの活気と笑顔があふれる写真を展示

そのほかにも大人から子どもまで楽しめる楽しいゲームやイベントを行います!

出前コンサート

	日付	開演時間	場所	定員
第1回	8月5日(火)	14:30	白金いきいきプラザ	50人
第2回	8月19日(火)	15:45	豊岡いきいきプラザ	35人
第3回	9月11日(木)	14:30	高輪いきいきプラザ	40人
第4回	10月4日(土)	14:30	白金いきいきプラザ	120人

※入場無料、当日直接会場へ(会場先着順)。開場は開演の15分前

子ども記者を募集します!

「たかなわフェスティバル」の開催に合わせて、今回も「子どもみなとつぷ編集室」を開設します。日ごろ、みなとつぷの企画編集に参加している編集メンバーたちのサポートのもと、子ども記者がフェスティバルの取材や記事(原稿)の作成を行います。

子ども記者が作成した記事は、地域情報紙みなとつぷ25号(11月下旬発行予定)に掲載する予定です。

日時 11月8日(土)または9日(日)に実施予定

対象 高輪地区の子どもたち(概ね15歳まで)

※記事の文章(簡単な作文程度)を作成することができること。

募集人数 数名程度(小学生以下の場合は保護者の付き添いが必要です)

募集方法 詳細は、港区ホームページや広報みなどに掲載するほか、公共施設等で配布するチラシをご参照ください。(9月予定)

<問い合わせ> 高輪地区総合支所協働推進課地区政策担当 ☎03-5421-7123

高輪地区歴史・文化資産のデジタルアーカイブ

みなさんの大切な写真を募集します!!

高輪地区で育まれた人々の、暮らしの移り変わりを知ることができる写真を持ち寄り、ワークショップを開催します。写真をお持ちでない方も参加できます。その他、撮影しながら巡るまち歩きや、写真の発表会を行いますので、ぜひご参加ください。

※内容は予定です。詳細は今後、広報みなどや区ホームページなどでお知らせします。

参加者募集 ●ワークショップイベント●

日時・場所

①昔懐かしい写真を収集するワークショップ

平成26年9月7日(日) 午後1時~4時 高輪区民センター集会室

②写真撮影を楽しむまち歩き

平成26年9月28日(日) 午後1時~4時 ※雨天決行。荒天の場合、10月5日(日)に順延。

③今昔比較の写真発表会

平成26年11月9日(日) 午前10時~正午 高輪区民センター集会室

※原則、①、②、③3日間の参加をお願いします。全ての参加が難しい場合はご相談ください。

申込み

8月24日(日)までに、写真の有無、参加申し込みについて下記、問い合わせ先へ(平日午前9時~午後5時受付)

募集する写真 2010年(平成22年)以前に高輪地区(三田4・5丁目、高輪、白金、白金台エリア)で撮影されたもの  
※ご提供いただいた写真は返します。

<問い合わせ> 港区高輪地区総合支所協働推進課地区政策担当

〒108-8581 港区高輪1-16-25 ☎03-5421-7123

ご自宅に眠っている高輪地区の思い出の写真はありませんか?



収集した写真例(昭和30年代の朝日中学校)



ワークショップの様子

収集した写真は、港区ホームページで公開しています

港区ホームページ  
<http://www.city.minato.tokyo.jp>

※高輪地区総合支所のページをご覧ください

臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金のお知らせ

7月14日に「臨時福祉給付金」または「子育て世帯臨時特例給付金」の申請書を対象となる方に送付しています。各給付金の受取りには申請が必要です。申請受付は平成27年1月15日(木)までとなっております。お早めに申請をお願いします。

申請書の提出方法

区に郵送または各地区総合支所の臨時受付窓口への提出となります。提出の際には、申請書類の記入漏れや、添付書類の不備がないか確認をお願いします。

受取方法

各給付金の受取方法はご指定の金融機関口座への振込みとなります。なお、預金口座がない等特別の理由がある場合に限り10月以降区役所本庁舎の臨時受付窓口にて現金による支給を行います。

注意

各給付金に関する振り込め詐欺や個人情報の詐取にはお気をつけください。

<問い合わせ>

みなとコール ☎03-5472-3710

臨時福祉給付金担当・子育て世帯臨時特例給付金担当 ☎03-3578-2846(直通)

編集だより

▼版画家の原田さん、模型飛行機操縦の井上さん、どちらもわくわくするような楽しい取材でした。(安藤)

▼みなとつぷの編集ボランティアも2年目になりました。今年は、よりみなさまに楽しんでいただける紙面にしていきたいと思えます。(梶)

▼お元気な前澤さん、食事に秘密が?との問いに「なあんでもいいのよ。」グラタン、ピザもOK。拘らない事が健康の源のようです。(森)

▼時代の波に押し流されるように、消えてゆく高輪地区の古い建造物に、一抹の寂しさと郷愁を感じさせられます。(明石)

▼今も残る古建築物の中では、現実の生活が営まれており、貴重な文化的価値と、実生活との兼ね合いが悩ましいところ。(伊関)

▼高輪に引越してきて約5年、周辺のお店や催し行事・学生の活動等知らないことばかり、今は、本紙をよく読むようにします。(河井)

▼初めての参加でしたが、皆さまのおかげで、新発見の連続でした。この地域に住み始めて1年足らずですが、日々この街が好きになります。(川上)

▼今時血の繋がりの無いご子息のお嫁さんが娘さんとともに101歳を一生懸命支える姿にも感動しました。(河村)

▼二人で同じ趣味、大きな夢を追いかけている井上さんご兄弟。いつかは非、模型飛行機の華麗なる舞を見てみたいものです。(滝川)

▼今回初めて編集に参加し、地域で活躍する若者たち、イベント豆知識のコーナーのお手伝いをし、高輪地区の魅力を再発見しました。(土屋)

▼今回は「形にとらわれず」と検討しました。皆の意見をPC画面に示すITの達人、柔軟な大学生の文章、まとめ役のベテランに感謝です。(本城)

▼初めての参加でしたが、皆様の温かいご協力のもと記事が完成することができました。自分も地域で活躍する若者になれるよう、頑張ります。(増田)

▼毎回、取材でお目にかかる方々から色々なお話を伺い、目から鱗の思いをしています。今度はどうな方にお会い出来るか楽しみです。(松島)

▼みんなに迷惑をかけないで元気に過ごせれば何より幸せと仰る101歳の前澤常代さん、素晴らしい生き方ですね。見習いたいです。(吉田)

▼模型飛行機造りに熱中している井上兄弟は、ヘリコプターの模型にも挑戦しているとのこと。みなさんの協力でいい記事になりました。(渡邊)

区民編集メンバー

- 安藤 洋一(チーフ) 川上 智子 増田 祐輝
- 梶 昌夫(サブチーフ) 河村 保弘 松島 佐紀子
- 森 裕子(サブチーフ) 立川 元紀 吉田 由紀子
- 明石 美穂子 滝川 まりえ 渡邊 義信
- 伊関 則子 土屋 和夫
- 河井 一彦 本城 光子

※この情報紙は、区が公募し応募のあった地域住民と、区との協働でつくられています。

毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。事前にご確認ください。

区民課窓口サービス係 ☎5421-7612 / 保健福祉係 ☎5421-7085